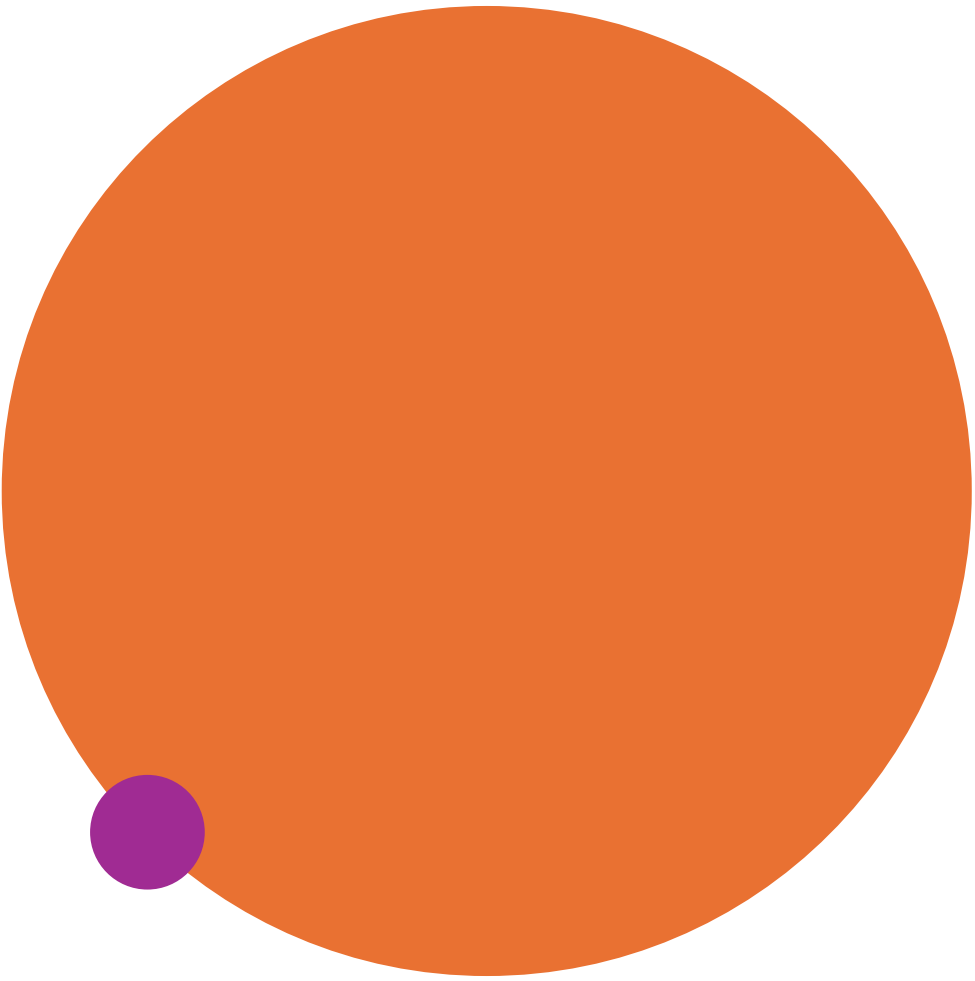

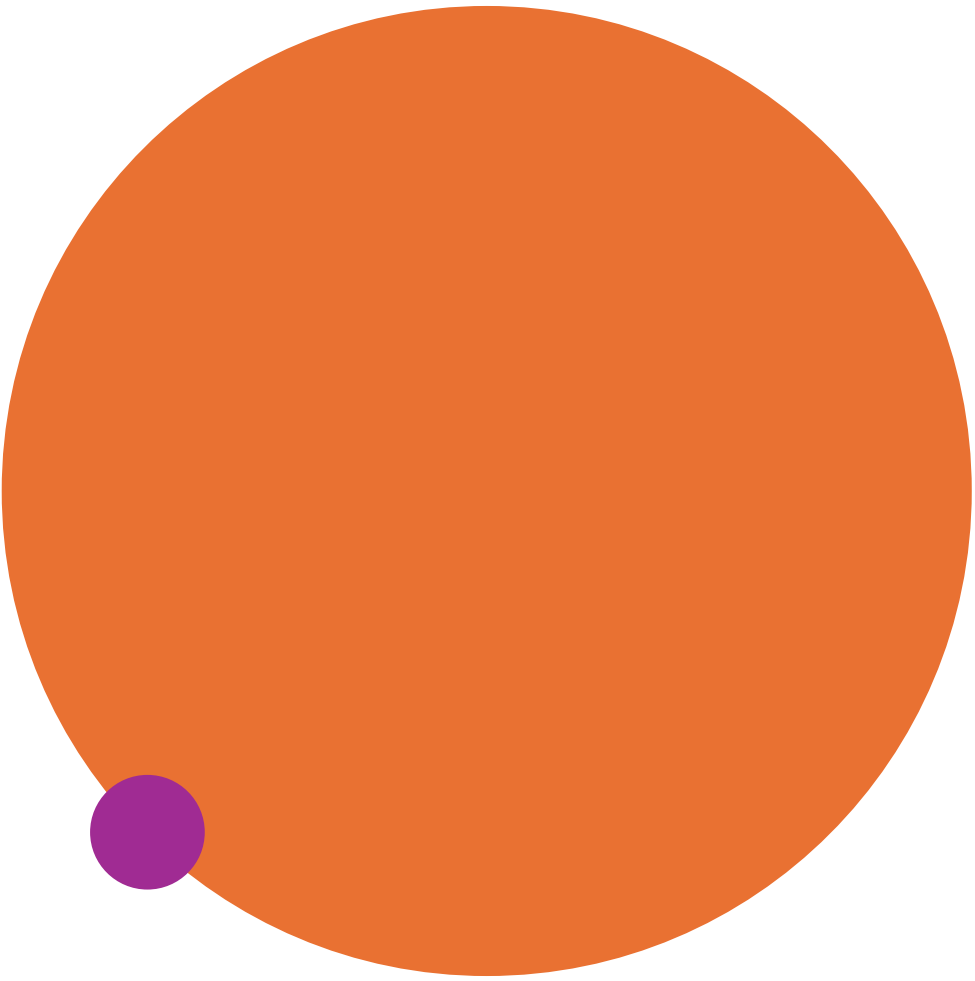
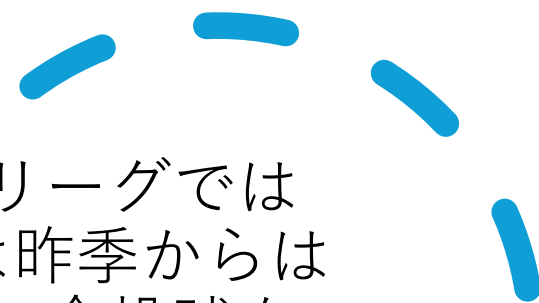
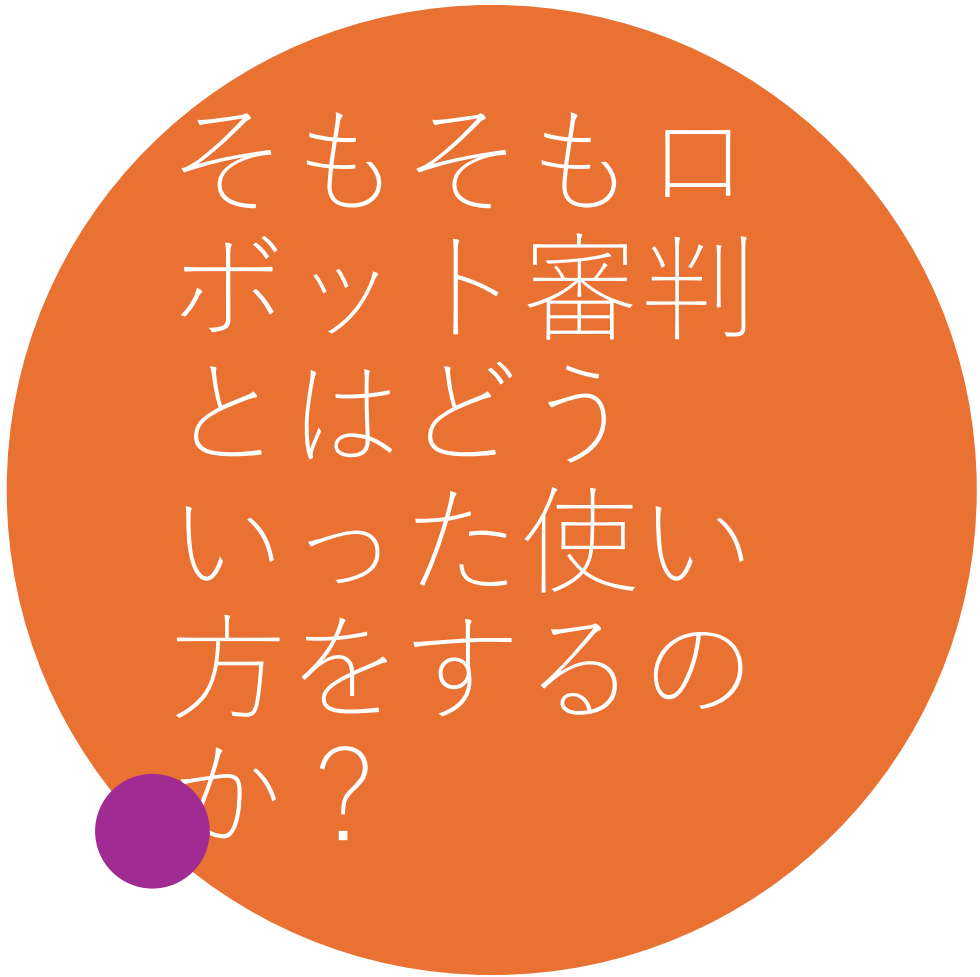


メジャーリーグ、
ロボット審判導
入は26年以降へ



- 
- 
- 米大リーグのコミッショナーであるマンフレッド氏は23日、ストライク、ボールを機械で判定する「ロボット審判」について、「2025年の実施を見送る可能性が高まっている」ことを語り、導入は26年以降になるとの見解を示した。

- 
- 
- 大リーグ傘下のマイナーリーグではすでに運用され、3A では昨季からは全球場で実施されている。全投球を機械判定する方式と、球審に対して意義を申し立てる「チャレンジ制度」が併用されている。マンフレッド氏は技術的な問題が残っているとした上で「メジャーに導入する場合、選手からはチャレンジ制度を採用すべきだとの声が多い」と話した。



そもそもロボット審判とはどういった使い方をするのか？

- ストライク、ボールの判定を機械が行い、音声を受信した球審がコールする方法などが検討されているという。

感想

- 私は正確なジャッジが行えるのであれば、ロボット審判の導入には賛成だ。ロボット審判を導入することによって試合時間の短縮やリーグ平均打率の向上、盗塁数の数も急増したというような結果がでている。これにより平均観客動員数も増加したということだ。投手、打者はフェアであるべきだと考えるため私はロボット審判の導入に賛成する。



コメント

ロボット審判に関しては「身長2メートルを超えるヤンキースのジャッジと165センチのアルトゥーベのストライクゾーンを均一にロボットが判断できるとは思えない」

エンゼルスのマドン前監督：「審判を含めて完璧ではないから野球は面白い。すべてが完全に正確だったら野球が持っている魅力は失われる」

元メジャーリーガー上原浩治氏：バッテリーが球審の癖を把握する“駆け引き”も野球の醍醐味だ。

